

Information 広報渉外委員会から

1. 理事会 (2009.11.18), 総会 (2009.11.20日) 報告

1) 物故会員報告

2009年10月31日現在, 敬称略

名誉会員 半田 肇, 松本 圭藏

正会員 加納 恒男, 尾崎 雅宏

2) 会員状況 (2009年9月30日現在)

正会員 2,476名

名誉会員 12名 (うち故人5名)

特別会員 7名

総個人会員 2,483名 (会員純増 110名, 2008年9月30日比較)

賛助会員 3社

3) 2008年度NPO法人日本脳神経血管内治療学会 決算報告 (2008.10-2009.9)

理事会, 総会で承認 (詳細はHP参照)

4) 2009年度NPO法人日本脳神経血管内治療学会予算 (2009.10-2010.9)

理事会, 総会で承認 (詳細はHP参照)

5) 副会長選出

2011年度 (2012年11月第28回学術総会) 会長

江面正幸先生 (仙台医療センター) を理事会で選出し, 総会で承認

6) 専門医制度委員会. 地方会整備委員会

(1) 下記の7つの学術集会を日本脳神経血管内治療学会地方会に認定

日本脳神経血管内治療学会北海道地方会

東北脳神経血管内治療研究会

日本脳神経血管内治療学会関東地方会

中部地区脳神経血管内手術懇話会

近畿脳神経血管内治療学会

中四国脳神経血管内手術研究会

日本脳神経血管内治療学会九州山口地方会

(2) 上記に対し, 学術集会開催助成金を年間100,000円支出

(3) 専門医, 指導医更新時に必要な学術総会出席義務 (5年間に3回) のうち1回を上記地方会への出

席2回をもって1回分に換えることができる. 住所地・勤務地に関わらずどの地方会への参加も申請可能だが, 1年に1回だけ申請可能.

<参考> 日本脳神経血管内治療学会専門医制度規則, 学術総会参加に関する附則

1. 制度委員会が認定した学会, 学術集会, セミナーの出席6回をもって学術総会出席1回分に換えることができる

2. 制度委員会が認定した地方会は, 上記3回分の出席とみなす

3. 認定を希望する学会, 学術集会, セミナーは, 制度委員会に認定を申請し, 審議を経て認定を受ける

7) 医療機器等実施基準委員会

日本脳卒中学会, 日本脳神経外科学会, 日本脳神経血管内治療学会が, 脳動脈ステント (脳動脈瘤治療用, 脳動脈狭窄治療用), 経皮経管の脳血栓回収用機器の実施基準を定め, 2009年9月に厚生労働省に提出したことを報告

<参考>

■ 頭蓋内動脈ステント (脳動脈瘤治療用) 実施基準

【適応】

脳動脈瘤

個別の機器の適応は, 薬事承認時添付文書記載の適応とする

【実施施設基準】

設備機器: 手術室または血管撮影室に適切な血管撮影装置が常設されていること

治療環境: 常時, 脳神経外科手術に迅速に対応できる環境を有すること

【実施医基準】

学会資格: 日本脳神経血管内治療学会専門医であること

研修義務: 対象医療機器の研修プログラムを修了していること

【付帯事項】

調査体制: 市販後調査 (PMS) に協力すること

この実施基準は市販後調査の結果をもとに3年毎に見直す

■頭蓋内動脈ステント（脳動脈狭窄症治療用）実施基準

【適応】

脳動脈狭窄症

個別の機器の適応は、薬事承認時添付文書記載の適応とする

【実施施設基準】

設備機器：手術室または血管撮影室に適切な血管撮影装置が常設されていること

治療環境：常時、脳神経外科手術に迅速に対応できる環境を有すること

【実施医基準】

基礎経験：日本脳神経血管内治療学会専門医またはそれに準ずる脳血管内治療経験を有しており、頭蓋内血管形成術を5件以上経験していること

研修義務：対象医療機器の研修プログラムを修了していること

【付帯事項】

調査体制：市販後調査（PMS）に協力すること

この実施基準は市販後調査の結果をもとに3年毎に見直す

■経皮経管的脳血栓回収用機器の使用 実施基準

【適応】

急性脳血管閉塞

個別の機器の適応は、薬事承認時添付文書記載の適応とする

【実施施設基準】

設備機器：手術室または血管撮影室に適切な血管撮影装置が常設されていること

治療環境：t-PA静注療法が実施可能な環境〔註1〕を有すること

【実施医基準】

基礎資格：術者として頭蓋内血管へのカテーテル誘導を5件以上経験していること

研修義務：対象医療機器の使用に関する研修プログラムを修了していること

【付帯事項】

調査体制：市販後調査（PMS）に協力すること

この実施基準は市販後調査の結果をもとに3年毎に見直す

〔註1〕 t-PA静注療法が実施可能な環境とは、以下の4項

目をすべて満たしていることを言う

1. CTあるいはMRIが24時間可能である
2. 急性期脳卒中に対する十分な知識と経験を持つ医師（日本脳卒中学会専門医など）を中心とするストロークチーム及び設備（SCUあるいはそれに準ずる病棟）を有する
3. 脳外科的処置が迅速に行える
4. t-PA静注療法実施担当者が日本脳卒中学会の承認する本薬使用のための講習会を受講し、その証明を取得する

ただし、発症24時間以内の急性期脳梗塞を数多く（たとえば年間50例程度）診療している施設の実施担当者については、本薬使用前の講習会の受講を必須としないが、できるだけ早期に受講することが望ましい

2. 第25回日本脳神経血管内治療学会学術総会報告

2009年11月19日から3日間、富山にて日本脳神経血管内治療学会総会が行われた。会長は富山大学脳神経外科の桑山直也先生で、今回は第25回目の学術総会である。会場は富山駅近くに隣接した3施設で、メイン会場であるA会場が富山市芸術文化ホール（オーバードホール）、BCDE会場がオークスカナルパークホテル、FG会場（ポスター会場）がボルファート富山であった。3日間の天候は曇りがちではあったが、大きく崩れることもなかった。桑山会長の話では、典型的な富山の11月の天候とのことである。とても印象的な風景は、2日目の朝にホテルから見えた雪をまとった立山連峰であった。

桑山会長の掲げたメインテーマは「脳血管内治療の責任と協調」で、サブテーマは「社会的立場の認識と基礎知識の再確認」であった。演題数は765題と過去最高であり、参加者数も1,671名でおそらく過去最高である。シンポジウムは「Image technologyの最前線」「脳静脈の機能解剖」「脳血管内治療の責任と協調」「脳血管内治療の教育」「硬膜動静脈瘻の不思議」の5つで、例年の総会でのシンポジウムとは大きく異なり、メインテーマに関連するものと、硬膜動静脈瘻に関連するものが取り上げられた。ミニシンポジウムは「脳血管内治療の抗血小板療法」「Bioactive coilの中期成績」「硬膜動静脈瘻の最前線」「フィルター時代のCASの検証」であり、現在話題になっているトピックスを討論した。また多くの

一般講演とポスター発表が行われ、ポスター賞が授与された(下記)。外国からのゲストは、韓国からDr Monn Hee HanとDr Dong Ik Kim, 欧州からDr Christophe Cognard, Dr Willem Jan van Rooij, 北米からDr Ajay Wakhloo, Dr Robert Willinsky, Dr Lotfi Hacin-Bey, エジプトからDr Habibの総勢8人で、多くの有意義な講演と討論が行われた。

2日目の理事長講演では、滝理事長がデバイスの償還価格について、その決定の仕組みや問題点などを講演し、会長講演では桑山会長がライフワークとする硬膜動静脈瘻に関する講演が行われた。会長講演は3日目のシンポジウム5「硬膜動静脈瘻の不思議」の基調講演と位置づけられ、桑山会長は最後のセッションで硬膜動静脈瘻治療のビデオライブを行い、ライフワークである硬膜動静脈瘻の診断と治療について会員に大きなインパクトを与えて、引き続き閉会を宣言した。

本会では企業の協力により多くの共催セミナーが行われた。1日目と2日目にランチョンセミナーが12講演、2日目と3日目の7時30分からウェイクアップセミナーが6講演行われた。またイブニングセミナーのテーマは「会心のリカバリーショット」で、これぞリカバリーショットという9つ演題が発表され、「CAS術中に生じた多発性頭蓋内血栓症をHITによると判断することで回復できた1例、大橋経昭先生」が金賞に選ばれた。本会と平行し、19日と20日にはティーチングシアターセミナーが10講演行われ、シミュレーターを用いたシミュレーションセミナーも行われた。これら共催セミナーは教育的なものが多く、多くの参加者に有益であったと思われる。またCEPは3日目午後6時に600人以上が参加し行われた。X線被曝、解剖、脳動脈瘤、頸動脈ステント留置術、小児、脊髄すべてをカバーした講義が行われた。

今回は北陸地方で行われた初めての総会であったが、テーマ、シンポジウムなどこれまでとひと味違う桑山会長の思いが結実した感動的な学術総会で、第25回日本脳神経血管内治療学会総会は成功裏に終了した。

《受賞者》

1. 論文賞

＜金賞＞

Ohshima T, Miyachi S, Hattori K et al. Risk of aneurysmal

rupture: The importance of neck orifice positioning-assessment using computational flow simulation. *Neurosurgery* 62:767-775, 2008

＜銀賞＞

Kiyosue H, Tanoue S, Sagara Y et al. The anterior medullary-pontomesencephalic venous system and its bridging veins communicating to the dural sinuses: normal anatomy and drainage routes from dural arteriovenous fistulas. *Neuroradiology* 50:1013-23, 2008

＜銅賞＞

Ishibashi T, Murayama Y, Urashima M et al. Unruptured intracranial aneurysm: incidence of rupture and risk factors. *Stroke* 40:313-316, 2009 (Epub 2008 Oct 9)

2. JNET論文賞

＜金賞＞

松原功明, 宮地茂, 大島共貴, 他. 光学的センサーによる脳動脈瘤塞栓用coilの挿入力測定装置の開発. *JNET* 2:113-118, 2008

＜銀賞＞

柏木淳之, 清末一路, 中原一郎, 他. Angioguard XPを用いた頸動脈ステント留置術中塞栓性合併症に関する多施設共同研究. *JNET* 2:179-187, 2008

＜銅賞＞

福本真也, 久門良明, 渡邊英昭, 他. CAS, CEA術後のcerebral hyperperfusion syndrome発症に関する術前リスクファクターの検討. *JNET* 2:16-22, 2008

3. ポスター賞

＜金賞＞

PA1-16-01 銭 逸(早稲田大学 先端生命医科学センター): Energy lossを用いた血流シミュレーションで脳動脈瘤破裂を可能に

PA1-16-05 濱田和秀(三重大学 脳神経外科学): Gellan Sulfate Core Platinum Coils Binding Tenascin-Cの開発と血管内腔の器質化促進能の検討

PB2-08-03 寺尾真美(慶應義塾大学大学院 理工学研究科): 血管壁内応力集中と血流の変化が再狭窄におよぼす影響

PB2-16-06 林健太郎(長崎大学 脳神経外科): ステント留置術後Angioguard filterの観察法

PA5-08-09 田上秀一(大分大学 放射線科): 硬膜動静

脈瘻に対するturn-back法を用いた経静脈的塞栓術
PA3-04-09 岩佐明子[看護](順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部放射線科外来)：脳血管治療における準備の重要性について
PB3-03-01 夏目貴弘 [技術] (聖隷浜松病院 放射線部)：脳血管造影画像からの血流定量画像作成法の開発
<銀賞>
PA1-01-01 坂本王哉(福岡大学筑紫病院 脳神経外科)：脳動脈瘤塞栓術におけるコイル挿入時のシャフトにかかる抵抗
PA1-18-02 結城一郎(UCLA Medical Center)：A Novel Retractable Stent Device for Treatment of Wide Neck Aneurysms
PA2-05-03 玉川紀之(秋田県立脳血管研究センター 脳神経外科)：VH-IVUS所見からのPTA の危険度評価—実際のプラークをバルーンで潰してみても—
PA2-15-08 高尾洋之(東京慈恵会医科大学 脳神経外科/脳血管内治療部)：脳卒中における新しい画像診断補助システムの開発—携帯端末(iPhone)を用いた救急患者たらい回し予防と早期診断・治療を目指して—
PA5-05-03 相良佳子(大分大学 放射線科)：静脈洞交會と隣接静脈洞の正常変異と硬膜動静脈瘻
PB3-05-07 更田雅美[看護] (富山大学附属病院 看護部)：未破裂動脈瘤の治療によるQOLの変化について
PA3-01-06 庄司友和[技術] (東京慈恵会医科大学付属

病院 放射線部)：Dual Source CTを用いた頭部CTA撮影時の被ばく線量測定
<銅賞>
PB1-13-03 片岡丈人(中村記念病院 脳神経外科)：コイル塞栓術後の再発動脈瘤に対する再塞栓術
PB1-12-05 森川 実(長崎大学 放射線科)：親動脈閉塞を行った脳動脈瘤の治療後評価における3D-MRDSA (TRICKS) の有用性
PA2-15-04 宗光俊博(京都大学 脳神経外科)：近赤外線を用いた頸動脈プラークイメージングの可能性検討
PB2-16-02 堀 雄三(永富脳神経外科病院 放射線科)：MDCTを用いた椎骨静脈の解剖学的検討
PA5-08-04 荻野達也(中村記念病院 脳神経外科)：硬膜動静脈瘻に対する治療戦略の検討における動脈相・静脈相分離3D-CTAの有用性
PA3-04-04 落合聖乃 [看護] (順天堂大学医学部附属順天堂医院 看護部脳神経外科病棟)：一般病棟における脳血管内治療看護の可視化—中堅看護師の視点から—
PA3-01-01 岸田絵美[技術](神戸市立医療センター中央市民病院 放射線技術部)：XperCTガイド下脳室ドレナージにおける頭部固定法の検討
4. イブニングセミナー賞
大橋経昭 (蘇生会総合病院), CAS術中に生じた多発性頭蓋内血栓症をHITによると判断することで回復できた1例